

令和2年度第2回みんなで支える森林づくり諏訪地域会議

- 開催日時** 令和2年12月2日(水) 13:00~17:00
- 開催場所** 現地(諏訪市、茅野市)及び諏訪合同庁舎502号会議室
- 出席委員** 藤森良隆 委員(座長・諏訪森林組合長)、片倉正行 委員(座長代理・元林業総合センター所長)、中村くすみ 委員(カクダイ製材所有限会社)、松下妙子 委員(NPO法人ふじみ子育てネットワーク代表)
- 事務局** 小山諏訪地域振興局長、高嶋諏訪建設事務所企画幹兼維持管理課長、小原林務課長、中島企画幹兼治山林道係長、青木課長補佐兼林務係長、岩間課長補佐兼普及林産係長、松橋主査、宮原主任、篠原技師

【現地調査】

- ① ライフライン等保全対策事業(茅野市北山地籍内)
説明: 松橋主査(振興局)、藤森係長(茅野市)、猿谷係長(諏訪森組)
- ② 「子どもの居場所」木質空間整備事業(長野トヨタ諏訪店)
説明: 篠原技師(振興局)、轟店長(長野トヨタ)



茅野市 北山地籍(ライフライン等保全対策事業)



諏訪市 長野トヨタ(木質空間整備事業)

【質疑応答】

① ライフライン等保全対策事業

Q（松下委員）

- 工期はどのくらいか？
- 残材の利用方法と、一本の立木処理にかかる費用は？
- 伐採時期は決まっているのか？

A（猿谷係長）

- 工事期間は4日から一週間程度。
- 残材は焚き物として地域の方が利用。未利用材はチップ化する。森林所有者の要望があれば販売する場合もある。伐採木の所有権は森林所有者にあることから、事前の了解が必要。
- 一本当たりの処理費用は規模により差があるが、平均すると約11万円余。
- 伐採はいつでも実施可能だが、落葉したこの時期が適期。

A（事務局）

- 本来、民有林は所有者が管理する。このような伐採も所有者が行う責任があるが、所有者が自ら伐採が行えず、要望があった場合はこの制度を活用して実施する。
- 要望が多いことから、市町村では優先度の高いものから実施。

Q（藤森委員）

- 伐採する対象木はどのように決めているのか。

A（藤森係長）

- 主には電線に近いものを対象とするが、電力会社と協議のうえ決定している。

② 「子どもの居場所」木質空間整備事業

Q（中村委員）

- 使用している樹種は？
- 森林税を活用したことを示す表示はあるか？

A（篠原技師）

- 床板にスギ、フレームはヒノキ
- （森林税活用の表示は近接の柱にテプラで表示）

【会議】

① あいさつ（小山局長）

- 今年度は森林税 3 期目の 3 年目。
- 本年度は当初の目的の里山整備に加えて教育、建設等の対策を追加して実施している。
- 委員の皆様には、森林税の使い方に目を光らせていただき、ご意見をいただきたい。
- 本日は本年度の実施状況に加え来年度の実施方針も説明する。
- 森林税が諏訪地域のためになるように取り組んでいくのでよろしくお願いしたい。

【質疑応答】

① 今年度の取組状況等について

松下委員

意見

- 諏訪の森林税事業は、使い道が充実している印象を持っている。
- 自然がたくさんあり、災害も多い中で、命を守るライフライン対策に森林税を有効に活用されていると感じた。使途が多岐に渡っている。
- 地元の富士見町は山梨県に隣接しており、松くい虫被害が心配。松枯れ対策も独自にやっていて予防対策をしっかりやってくれている。
- 森林税のPR（30秒CMを単発で放映）はサブリミナル効果もあるし、その気になって見る人もいる。いい取組みだと思う。
- 長野トヨタの事業については、森林税事業のPRをもっと明確にすべき。長野トヨタが手を挙げて事業実施してくれてうれしいが、あのような簡単な表示だと、長野県の森林税を使わずに長野トヨタがやっている事業だと思われる。
- 全体的に、諏訪の森林税事業の取組みはしっかりやっていると思う。森林税を有効活用していることが見えていい。
- 茅野市のライフライン等保全対策事業は、費用対効果の面で妥当なのか知らなかった。

質問

- ヒノキの球（長野トヨタ諏訪店ショールーム内）はいくらか？
→ 2,000個で22万円/セット
- 木質空間整備事業の事業費内訳（フローリング、玩具別に）を知りたい。
→ 確認の上、後日示す。
- 森林税を活用していることをもっとわかりやすく表示できないか？
→ 事業では、「森林税を活用していることを表示する」ことだけを求めている。場合によっては、「分かり易い表示をすること」とするよう県へ伝える。

- 木質空間整備事業の補助申請手続きは大変なのか？
→ 複雑なものではない。

提案

- PR看板の製作加工費も税事業の対象にしていいのではないか。
- 全体的に森林税による事業であることをもっと積極的に表示すべき。

片倉委員

意見

- 茅野市の現場（ライフライン等保全対策事業）では、単木を対象としているが、ベルト（一定の幅をもって実施する方法）でやった方がいいのではないかと思った。
- 長野トヨタ（木質空間整備事業）では、設置後そんなに経年していないのに既にヒビが入っていたりして、造りが雑ではないか。
- 木材を使用することに悪いイメージになってしまうことが心配。丁寧な仕事をしないと逆効果になってしまうのではないか。（木材の剥離等でケガなど）
- 森林税のPRパンフレットを見ると、森林づくりは全部、森林税事業でやっているように感じてしまう。既存の国・県の事業があつて、足りない部分に対して森林税を活用しているのではないのか。

質問

- 玩具（丸い木のボール）の材質は？
→ ヒノキ材を使用。

提案

- 施設の使用者の安全を考え、丁寧な仕様にされたい。
- 使用している材質等も表示すべき。
- 森林税を活用しているという表示はもっと派手にやるべき。焼印などのマークも有効なのでは？
- 森林税のPRパンフレットには、森づくり全体に対して森林税の位置づけがわかるようにすべき。

中村委員

意見

- アカマツ材は伐採時期を決めて伐らないと色が変わってしまうので扱いが難しい。（座長から材の利活用についての問いかけに対して）
- 長野トヨタ（木質空間整備事業）について、スギは柔らかいので床板には不向き。床板にヒノキを使えば、香りも良い。塗装して柾にしてしまうのはもったいない。柾はスギで、床はヒノキにしたら良いと感じた。あの選定は逆だと思う。

提案

- 森林税のPRはしっかりやってもらいたい。

藤森委員（座長）

意見

- 長野トヨタ諏訪店のショールームに木製品があり、林業関係者としてうれしかった。

質問

- 木質空間整備事業で使用する木材の樹種は指定されていないのか。
→ 指定はされていないが、計画の段階で提案することは可能。事業主体に対してバックアップしたい。

② 来年度の取組方針等について

松下委員

意見

- 令和3年度はこれでいい。
- 小学校単位や地域の子どもたちのための活動は充実してきている。個別の発達支援に森林税を使えないか。
- 感覚統合を促すイスやブランコなど、大学などの専門の研究者と共に、開発するというものはどうか。
- 開発費や材料費に森林税を充てられないか。
- 私は、今日、実際に自然の中で、伐採作業を見させていただき時間をいただき参考になった。このことを子供たちへ伝えていきたい。

提案

- 発達障害の子供のために森林税を使ってほしい

藤森委員（座長）

質問

- 令和2年度のライフライン等保全対策事業を諏訪市と下諏訪町が実施していないが、来年度も要望がないのか？
→ 下諏訪町は要望がある。諏訪市においては該当箇所が少ないことから要望がない。
- 必要箇所が終わっているところはあるか。市町村によって取組みに対する温度差はあるか？
→ 終わったところはない。市町村により対応に差がある。

片倉委員

質問

- 塩尻市でソヤノウッドパワー（木質バイオマス発電）が始まった。材の入荷状況はどうか。
→ 今年度当初、木質バイオマス発電用の原木確保について、協定により十分確保されているということを知っていたが、稼働後、予定どおりの材入荷がなく、近隣である諏訪地域からの積極的な出荷を依頼されている。諏訪管内

の市町村及び林業事業体に対し、積極的な出荷を依頼しているところ。
→ 原木供給については全県で取り組んでいる。コロナの影響で、一時期、木材の動きが鈍くなったが、最近は、木材の流れは上向いて来ている。

中村委員

質問

- 茅野市で松くい虫被害が確認された。原因は枯損木の処理が悪かったからと聞いたがどうか？
 - 原因は不明。今年、茅野市で松くい虫被害木が1本確認された。その後、周辺の松を県林業総合センターとともにヤニ滲出法により調査した結果、松くい虫被害木は1本も確認されなかった。その後も確認された松枯損木の検体を採取し、検査しているが、これまでの検査で松くい虫被害は確認されていない。
 - 松くい虫被害木が1本でも発見されたら、その市町村が松くい虫被害市町村に指定されるものではない。現在、諏訪管内においては被害木をすべて処理しており、被害拡大は見られない。
 - (片倉委員) 岡谷市で昨年3本松くい虫被害木が出たが原因はわからない。その後、松枯れはあっても松くい虫被害木は検出されていない。
林業総合センターの所見では、諏訪地域は標高が高く寒冷であることから、松くい虫被害木が出ても徹底駆除すれば松くい虫の侵入を阻止できる地域であるかもしれないと言われている。